

当面の金融調節方針について

- (1) 景気は引続き回復過程を辿っているが、その回復テンポはより緩慢なものとなっている。
- (2) 物価面では、卸売物価が最終財を中心に弱含みで推移しているほか、消費者物価も前年比上昇幅が引続き低下傾向にあるなど、全体として一般物価は安定度合を増している。
- (3) 金融面では、マネーサプライの伸びは緩やかなものにとどまっている。
また、最近の債券・株式市場では、このところの為替円高化の動きなどを受けて、景気の先行きに対する不透明感が強まっているように窺われる。
- (4) 以上のような経済情勢を踏まえ、日本銀行は、当面の金融調節に当って、現在の公定歩合の水準と整合的な範囲内で、金融緩和の効果が最大限発揮されるよう、短期市場金利の低下を促すことが適当と判断した。

以 上